



沖小だより 8月

令和8年8月 第11号
門真市立沖小学校
校長 吉川 茂樹

「勉強は、世界の見え方を変える」

長い夏休みが終わり、今日から2学期がスタートしました。今朝、久しぶりに子どもたちの元気な声が校庭や廊下に響き渡り、学校に活気が戻ってきたことを嬉しく思います。

さて、夏休み中、お子さんから「**なんで勉強しなきゃいけないの？**」と聞かれた方はいらっしゃるでしょうか。子どもの頃、誰もが一度は抱く疑問だと思います。実はこの問いに、とても分かりやすく答えてくれる話があります。



ある教師が、机の上にコップを置いてこう答えたそうです。

「**算数**」を学べば、この中に200mlの水があると、数字で“見える”ようになる。

「**理科**」を学べば、この水が水素と酸素からできていることを知る。

「**社会**」を学べば、この水がどこから来たのかがわかり、世界にはこのきれいな水を飲めない人たちがいることを知る。

「**美術**」を学べば、この水面の反射の美しさを描けるようになる。

「**音楽**」を学べば、同じコップでも水の量で音が変わることに気づける。

「**技術**」を学べば、このコップがなぜ漏れないのか、その仕組みと人の創造の凄さがわかる。

「**保健体育**」を学べば、この水が体にどれだけ大切か、命を支える正体が見えてくる。

「**道徳**」を学べば、この水を誰かと分け合うことの大切さ、思いやりの心が育つ。

「**国語**」を学べば、今話したこと全部の意味を、正しく理解できるようになる。

「**英語**」を学べば、この話を世界中の人と分かち合えるようになる。

でも、もし何も学ばなければ、このコップの中にあるのは「ただの水」のまま。
だから、勉強するのです。

この世界を、ただ見ているだけの人生で終わらせないために。

同じコップの水を見ていても、学んだことの分だけ、そこから受け取れるものは何倍にも広がっていきます。**学ぶことは、知識を「暗記する」ことではなく、世界を「理解する」こと。**そして、**人や自然、社会への感謝や好奇心を育て、自分自身の可能性を広げてくれるもの**でもあります。

今日から始まる2学期、子どもたちが学ぶことの一つひとつは、明日すぐに役立つとは限りません。それでも、その積み重ねが、いつかきっとその子だけの「**世界の見え方**」をつくってくれます。

ただ景色を眺めるだけの人生ではなく、**豊かに世界を味わえる人生を**、子どもたちに歩んでほしい。そんな願いを込めて、2学期も子どもたちと一緒に学んでまいります。

保護者の皆様には、2学期も変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。





水曜日の授業時数の変更について

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本校では、学習指導要領に定める標準授業時数を確保した上で、各学年の年間授業時数や年間の授業実施可能日数を踏まえながら、週ごとの授業時数が偏らないよう授業時程・時間割の編成を行っております。

文部科学省も、「**子供に余白を創出し、豊かな教育活動に繋げる**」ことを重視しており、「**年度当初の計画段階では真に必要な時数を設定しつつ、年度途中で柔軟なマネジメントを行うことが基本**」であるという考え方を示しています。本校でも、この趣旨を踏まえながら、年間を通じた授業時数の適正な配置について検討を重ねてまいりました。

その結果、**2学期より、水曜日については【全学年4時間授業】、委員会活動・クラブ活動がある日は4年生以上のみ5時間目を実施する**ことといたしました。

これにより生まれる時間を活用し、**子どもたちがゆとりをもって主体的に活動に取り組む機会を増やす**とともに、教職員の授業準備や研修の時間を確保することで、**授業の質の向上や子どもたちの学習意欲・学びの深まりにつなげてまいります**。

なお、年間の授業時数につきましては標準授業時数を上回る形で計画的に確保しており、**学習内容の定着に影響が生じることはございません**。今後とも子どもたちの学びの充実に向けて取り組んでまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

夏休み期間、先生たちは学び続けました！

長い夏休み。子どもたちの声が聞こえない校舎はどこか静かですが、実は職員室や図書館では、静かに、そして熱く「学び」が続いていました。

図書館に集まった先生たちが向き合っていたのは、令和8年度の全国学力・学習状況調査のデータ。一人ひとりの子どもたちの学びの姿を数字から読み解きながら、「**2学期の授業をどう工夫すれば、子どもたちがもっと『わかった！』『できた！』と実感できるか**」を、真剣に話し合いました。

また、大学の先生を講師にお招きし、「ポジティブ行動支援」についての研修も行いました。**子どもたちの良いところに目を向け、認め、伸ばしていく関わり方**を、実践的な視点から学び直す時間となりました。

さらに、教育委員会の指導主事を講師に迎えた学習会では、「全体性のたまご」というワークを通して、一人ひとりの先生が「**2学期わたしが目指す子どもたちの姿**」を考えました。子どもと向き合う前に、まず先生自身が自分を見つめる——そんな丁寧な時間でした。

夏休みは、先生たちにとって「充電」の時間であると同時に、子どもたちのために力を蓄える「準備」の時間でもあります。2学期、子どもたちの前に立つ先生たちの表情が、また一段と輝いて見えるのではないかと、今から楽しみにしています。

